

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史科／地理総合】

1. 対象

授業者の話を良く聞き、ペアワークなどでは活発に意見交換できる学級である。大学進学、専門学校、就職と、進路の希望はさまざまであるが、中学の知識を復習する場面では、挙手をしたりつぶやくなどの反応を示し、積極的に授業に取り組む姿勢がある。地理に対して前向きに取り組む生徒が多いことから、より身近で興味を持てる題材を用いて、生徒の積極性を伸ばしたいと考える。

2. 単元名「生活文化の多様性と国際理解」（全12時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ●地形や気候の成り立ちに関する知識を身につけ、それぞれの地理的事象について世界的な視野から読み取っている。 ●地形図から等高線や地図記号などの情報を読み取り、地形の特徴や土地利用を捉えている。
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ●地形や気候の成り立ちについて、プレートテクトニクスや大気大循環、海洋分布などと関連づけながら、その成因と分布の特徴を世界的視野から考察している。 ●ケッペンの気候区分から各気候分布の規則性を捉え、生活文化との関連性を比較しながら共通点や相違点を考察し、整理して表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の地形・気候の成り立ちと生活文化・産業とのかかわりについて、主体的に学ぼうとしている。 ●地形を活かした人々の暮らしの学習を通して、我が国の国土に関する諸課題を自分事として捉え、主体的に学ぼうとしている。

4. 本時の目標

ハザードマップを用いて、想定される津波の浸水地域と避難場所を調べ、学校周辺地域の地形について理解を深める。

5. 授業展開【本時・単元】

<p>解決したい課題や問い</p>
<p>学校帰りに地震が発生したら、どこへ避難すればよいか。想定される津波の規模を把握し、適切な避難場所と経路を考えよう。</p> <p>※以下の2人のシチュエーションを考える。</p> <p>Aさん：親との待ち合わせ場所であるスーパーマーケットに着いた直後に地震が発生した。</p> <p>Bさん：御前崎方面へ帰るため、商店街にある停留所でバスを待っているときに地震が発生した。</p>

考えるための材料A	考えるための材料B
<p>A(またはB)さんのいる場所についての情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・重ねるハザードマップ 	<p>A(またはB)さんの近くにある避難所についての情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・重ねるハザードマップ
<p>想定される活動</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・『重ねるハザードマップ』の「津波」のレイヤーを用いて、AさんとBさんのそれぞれの場所の最大浸水規模を調べる ・『重ねるハザードマップ』の「断面図」のツールを使って、2人の場所の標高を調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・『重ねるハザードマップ』の「指定避難所」のレイヤーを用いて近くの避難所を調べ、避難するのに適切な場所の候補を挙げる ・『重ねるハザードマップ』の「距離計測」ツールを用いて、避難場所までの距離を調べる

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

学習の流れ 本時（12/12）

導入 前回の振り返り（5分）

- ・学校周辺を示した地形図を用いて、学校周辺の地形や地質について思い出す。
特に氾濫原・後背湿地・砂嘴が分布している地域を指でなぞる。
- ・後背湿地の成り立ちと、そこで起こりうる自然災害を、教科書を見て復習する。
→「災害」という言葉から、津波の話題へ考えを移す。

展開（35分）

（1）本時の問いを把握する

「学校帰りに地震が発生したら、どこに避難すればよいか。」

※今回は学校以外の避難場所を考える。

（2）ワークシートを見ながらAさん、Bさんの現在地と学校の位置を把握する。

Aさん：親との待ち合わせ場所であるスーパーマーケットに着いた直後に地震が発生した。

Bさん：御前崎方面へ帰るため、商店街にある停留所でバスを待っているときに地震が発生した

（3）自分の担当を把握する（AさんまたはBさん）

（4）AさんとBさんのシチュエーションを考える（エキスパート学習）

エキスパート1 考えるための材料A A（またはB）さんのいる場所についての情報
①標高②学校が立っている場所と現在地の標高比較
③その場所で想定される津波の高さ④津波到達予想時間

エキスパート2 考えるための材料B A（またはB）さんの近くにある避難所についての情報
①避難所名②現在地からの距離③到着までにかかる時間

（5）エキスパート1と2の担当者が2人組になり、調べた情報を発表し合う。（5分）（ジグソー）

（6）（5）の二人で、A（またはB）さんが向かうべきと思う避難所を1つ考える。（10分）

本時は、AさんまたはBさんどちらか1人の避難所を考える。

（7）（6）で選んだ避難所までのルートを考える（3通り）（10分）

→時間があれば、実際にルートをGoogleマップのストリートビューで見てみる。

まとめ（5分）

Q1 今回の授業を踏まえて、あなたは地震や津波に備えるために今後どのようなことをしようと思うか？

Q2 実際に学校帰りに地震や津波が起こったら、あなたが避難所へ向かう際にそのようなことに気を付けて避難すべきと思うか？

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・Aさんの立場であれば、近くのもう一つのスーパーが避難所に指定されているので、そちらへ避難すると良いと考える。スーパーなので、避難する人々が一時的に食料を確保する拠点にもなると思う。
- ・Bさんの立場であれば、近くに避難所はあるが3階建ての建物で浸水に耐えられるかが少し不安。また収容人数も少ないため、地域のお年寄りなどが先に入っていたら自分たちは遠くの場所へ避難しなければならないのかもしれない。
- ・この地域は津波の被害にあう地域であることはわかっていたが、どのくらいの規模（高さ）の津波が来るかまでは知らなかった。避難場所は多くあることが分かったが、全ての避難所が確実に被害を最小限に抑えるとは限らない。お年寄りも多い地域なので、可能な限り高校生は避難場所を複数把握しておき、1つの避難所がいっぱいの場合でも臨機応変に移動するなどができると良い
- ・普段はバスで通学していて学校周辺の様子を把握しきれていなかった。バスを待っている間などに被災しても判断が遅くならないように、日ごろから学校周辺の高い建物などを把握しておく必要があると思った。